

■（282）選挙につきものか、「フェイクニュース」の情報戦

女性の声で夜遅く、新聞社に電話がかかってきました。地元の首長が業者から「袖の下」を受け取っているといいます。パワハラで側近に自殺者が出たとも訴えます。情報源がばれると「村八分」になるからと匿名です。本当ならば重大なニュースです。

トランプ米大統領の言う「フェイクニュース」が頭をよぎりました。自らに不利な情報を「ウソ」と一蹴するフレーズで、選挙の時から連発しています。女性の住む自治体も4月に統一地方選挙があります。「たれ込み」の真偽は別として、情報戦は始まっているかもしれない。インターネットが普及する前の攻撃手段は「怪文書」でした。出所不明のビラが報道機関や家庭のポストに投げこまれます。多くは異性や金銭問題です。読んだ人はつい周囲に話してしまうので選挙区にうわさが広まります。うそか本当かは確認できないことが多いので、有権者の間で疑心暗鬼が生まれます。それが発信者の狙いなのです。

記者も「怪文書」を確認しますが、過程で中身を拡散しないように慎重を期します。その上で真実ならば記事にします。善意の告発に応えるのも新聞の責務だからです。(山)